

気腫性膀胱炎に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年9月28日 ～ 2026年3月31日

〔研究課題〕

気腫性膀胱炎の起炎菌や臨床転帰に関する臨床研究

〔研究目的〕

気腫性膀胱炎は、尿路に感染した細菌が炭酸ガスを産生し、膀胱壁・膀胱内にガスが貯留する比較的稀な膀胱炎です。症例数が多くないため、起炎菌や臨床転帰などはまだ十分に明らかになっていません。

本研究では、過去に当院で診療した気腫性膀胱炎の患者さんの診療録を調査し、今後の治療の改善に役立つ知見を得ることを目的としています。

〔研究意義〕

気腫性膀胱炎の起炎菌としてどのようなものが多いのかが明らかになれば、今後の同様の患者さんに対して、有効な抗菌剤を治療初期から投与することができます。重症化につながる因子を特定できれば、個々の患者さんに対してより良い治療戦略を立てることができると考えられます。

〔対象・研究方法〕

2009年1月1日から2024年5月31日までの間に、当院で気腫性膀胱炎の治療を実施した患者さんが対象です。未成年の患者さんは含みません。診療記録から、年齢や性別・基礎疾患、自他覚所見、診療経過、血液尿検査結果等の医学情報を調査し、各種の統計解析を行います。研究者は帝京大学医学部附属病院に所属する者に限られます。過去の診療録調査を調査するだけの研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼすことはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 泌尿器科・内科・外科・救急科・放射線科

〔個人情報の取り扱い〕

患者さんのお名前など個人情報は、誰のものかわからないように加工したうえで研究を行い、その保護には十分に配慮いたします。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。研究終了後、情報を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部泌尿器科学講座 主任教授 中川徹
情報管理責任者：帝京大学医学部泌尿器科学講座 教授 重村克巳
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL 03-3964-1211 (代表) [内線 33709]